

令和5年度の運営方針及び 事業計画策定に向けて

更なる保健事業の充実について

令和4年度 第2回 愛知健康づくり推進協議会 2022/12/8

5年度支部事業計画の策定にあたって ~ 令和5年度の位置づけ ~

『健診から保健指導・受診勧奨という一貫したコンセプト』

●健診・保健指導実施率の向上（量的カバー）

○6年度からスタートする第6期アクションプランを見据え、第5期アクションプランの最終年度である5年度は、保健事業における基盤的取組である健診・保健指導実施率の向上についての体制整備を行う期間である。

特定保健指導等の効果的な実施方法等に関する検討プロジェクトチームの設置

<目的>

○各種のKPI、とりわけ被保険者の特定保健指導の実施率については、これまでの支部の取組により着実に向上しているものの、第3期特定健康診査等実施計画における各年度の目標値には届いておらず(※)、最終年度である2023(令和5)年度の実施率目標値35%の達成に向けて、より一層取組を強化していく必要がある。

(※) 2020(令和2)年度加入者目標値20.6%→実績値15.4%
2021(令和3)年度加入者目標値24.1%→実績値18.0%

量的カバー

○コンテンツの見直し
○業務面の標準モデルの策定○
支部KPIの設定見直し

検討

「特定保健指導等の効果的な実施方法等に関する検討プロジェクトチーム(略称:特保PT)」

順次結論

5年度中に体制整備

・経年的未利用事業所等への働きかけ
・標準モデルに沿った特定保健指導の利用案内
・健康意識が高まる健診当日や健診結果提供時における効果的な利用案内
・契約未締結および保健指導実施率が低い健診機関へのアプローチ

●結果を出せる効果的な保健指導等（質の向上）

○「個人の受診者の行動変容につながり成果が出たことを評価する(アウトカム指標の導入)」という方針に沿った議論が行われており、「成果を重視した特定保健指導の評価体系」に見直され、委託業務も含めて特定保健指導の実施方法が大きく変わると想定される。

更なる保健事業の充実について

(1)LDLコレステロール値に着目した受診勧奨(4年度から実施)

現役世代の循環器疾患の重症化予防対策として、LDLコレステロール値に着目した受診勧奨を実施。

(2)重症化予防対策の充実(6年度から実施)

被扶養者及び協会が事業者健診結果データを取得した者を対象として、高血圧等に係る未治療者に対する受診勧奨を実施。

(3)支部における地域・職域の特性を踏まえた保健事業の実施(6年度から実施)

喫煙、メンタルヘルス等に着目した新たなポピュレーションアプローチ等、支部における地域・職域の特性を踏まえた保健事業を実施。

(4)健診・保健指導の充実・強化

①生活習慣病予防健診(一般健診)の自己負担の軽減(5年度から実施)

健診実施率の向上のため、現在38%の一般健診の自己負担について、総合健保組合の水準を参考に28%に軽減。併せて、健診実施率向上には事業主との協働が必要であり、関係団体と連携した受診勧奨等の取組をより積極的に実施。

※1現在自己負担30%の生活習慣病予防健診の乳がん検診・子宮頸がん検診のほか、肝炎ウイルス検査についても、自己負担を28%に軽減。

②付加健診の対象年齢拡大及び自己負担の軽減(対象年齢拡大は6年度から、自己負担軽減は5年度から実施)

疾病の早期発見等の目的、健保組合の実施状況、定年延長の状況等を踏まえ、現在50%の付加健診の自己負担について、28%に軽減するとともに、対象年齢を現行の「40歳、50歳」から「40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳」とする。

※2なお、健診内容については、国の特定健康診査等基本指針の見直しの動向(令和4年度中に取りまとめ)を踏まえることとしている。

現在 愛知支部保健グループが検討していること

- ・事業所の健康サポートとして事業所担当者と共に従業員の健康を維持するお手伝いを行い「健診から保健指導・受診勧奨」まで実施
- ・新規対応事業所拡大と対応中事業所のレベルアップによる事業所の健康経営志向拡大
- ・若年層に対する健康サポートによる生活習慣病者の減少

《健診部門》

- ・新規契約機関の拡大による受診環境の向上
- ・ターゲットを絞った効率的・効果的な未受診者勧奨強化
- ・ホームページやYoutubeなどの活用による案内や健診事務説明会実施
- ・外部委託業者・健診実施機関との連携・進捗管理強化による効果的な健診実施
- ・自治体との連携強化による集団健診合同開催の実施

《指導部門》

- ・電話勧奨の決定率が悪い「中村区」「中区」「東区」を中心に事業所訪問等、勧奨強化
- ・ワンデーなど対象者が参加しやすい集団指導の実施
- ・専門業者の新規開拓やICTを活用した店舗型実施機関の拡大によるモデル実施
- ・契約医療機関の現状把握とフォローアップによる健診当日の初回面談実施拡大
- ・契約していない医療機関の対象者数確認と店舗型活用誘致による対象者の利用機会拡大
- ・健診当日のミニ集団指導の実施による指導未実施者の縮小

《重症化予防》

- ・外部委託業者を活用した効率的かつ有効的な勧奨の実施による受診者拡大
- ・糖尿病性腎症に係る予防対策として外部委託業者を活用した受診勧奨によるデータヘルス計画の推進

などなど



健康サポート 愛知支部の事業所サポートについて

〈事業概要〉

健康宣言をしているもののその後のフォローができていない事業所に対し、事業所の課題を確認しサポートしていく。健康サポートをする中で健診・指導実施の必要性を理解してもらう。
(各事業所の状態に合わせた経年目標設置)

〈目的〉

健康で働き続けられる加入者を増やすために必要なことは、病気が軽症うちに発見し治療すること。そして、健康な体を作ること。

そのための有効な手段である特定健診および特定保健指導について事業所に理解してもらい、加入者の健康のため協力することで、加入者が健康サポートを受けやすい環境を作ることが当面の目的。

今後はこの健康サポートを継続することにより、事業所だけで健康経営が行えるようになること、加入者が積極的に特定健診・特定保健指導を受けるようになること、そして愛知支部の加入者の健康度がアップとなることを、この事業の最終目的とします。



健康宣言事業所向けアンケートのお願い

会社名	担当者	連絡先	※ 解りやすい時間帯 (AM・PM)
-----	-----	-----	-----------------------

Q1 お送りしました資料はいかがでしたでしょうか。

該当する箇所に☑をお願いします。

- ☐ 健康づくり・健康経営について理解できた
 ☐ もっと詳しい内容が知りたい
☐ 協会けんぽがサポートしてくれることを初めて知った
 ☐ すでに知っている内容だった
☐ 内容の理解ができなかった（難しかった）
 ☐ その他 ()

Q2 お送りしました資料の説明で訪問を実施しております。訪問を希望されますでしょうか。

該当する箇所に☑をお願いします。

- ☐ 事業所への訪問を希望する
 ☐ 協会けんぽでの説明を希望する
☐ 電話での説明を希望する
 ☐ 説明や訪問等は不要

Q3 「社員の健康管理」として取り組みたいことはありますか

該当する箇所に☑をお願いします。（複数可）

- ☐ 健康に関する社内研修
 ☐ からだ相談会
 ☐ 運動・食事相談会
☐ 分煙（禁煙）対策
 ☐ 若年層への健康対策
 ☐ 女性に関する研修
☐ メンタルヘルスに関する研修
 ☐ 健診・保健指導の充実
 ☐ 上司に理解を得る



Q4 健康経営や健康サポートに関し、ご質問等をご自由にご記入ください

()

ご記入ありがとうございました。



第1四半期の結果から見た考察

	愛知支部4年度KPI	第1四半期の結果		実績を大幅に伸ばしている他支部の取組	愛知支部の課題	支部の実績を伸ばす健診・指導勧奨プラン
生活習慣病予防健診	57.0%以上	11.4% 全国平均：12.8%	前年を上回っているものの元年度の水準には戻っていない。	・人間ドック受診の大規模事業所と「生活習慣病予防健診+オプション」に変更する調整をした。 ・生活習慣病予防健診未利用事業所への受診勧奨実施。(＋1.0%)	契約健診機関数は増やしているのに、受診者数が伸びていない。健診機関による未受診勧奨やターゲットを絞った受診勧奨等の効率的な新しい取り組みが有効と考え取り組んでいる。	
事業者健診	11.6%以上	2.2% 全国平均：1.3%	前年・元年度ともに上回っている。	・健診機関を訪問のうえデータ作成の指導を実施。(＋2.1%)	外部委託業者による取得勧奨が一定の効果を発揮し、データ取得率は増加している。しかし、まだまだ提出が遅い健診機関があるため、健診機関の課題を確認し、解決していくことが必要と考えている。	
特定健診	36.3%以上	4.3% 全国平均：4.2%	前年と同じくらいではあるが元年度の水準には達していない。	・健康宣言事業所の被扶養者あて健診の案内を実施。(＋0.6%) ・健診機関を訪問したデータ作成の指導を実施。(＋2.1%)	集団健診が健診機関任せになっており、開催場所・日程を計画的に行えていない。被扶養者の受診につながる効果的な集団健診の実施が必要と考えている。	
保健指導被保険者	28.8%以上	13.9% 全国平均：20.6%	前年と同じくらいであるが元年度から見ると増加している。実施数でみると3年度を下回る。	・対象者の選定から訪問日程の調整を選任体制にして案内の実施率を高めた。(＋58.8%)	健診当日の実施が広まっていない。健診結果など指導を受けた効果をフィードバックできていない。	
保健指導被扶養者	14.5%以上	27.2% 全国平均：42.9%	前年と同じくらいであるが元年度から見ると増加している。実施数でみると3年度を下回る。	・健診当日の初回面談をセットにした集団健診を実施。(＋261.2%) ・健診当日の初回面談をセットにしたオプション健診を実施。(＋75.3%)	魅力ある集団健診の実施と健診当日の初回面談の実施ができていない。	
重症化予防	12.4%以上	9.3% 全国平均：10.3%	元年度・前年度の結果を下回っている。	・受診勧奨の委託先を民間業者から健診機関に変更。(＋5.1%) ・受診勧奨後に電話での受診確認実施。(＋3.2%)	受診の必要性和受診の効果がアピールできていない。	

若年層をメタボにしないために ― 職種から見た考察 ―

「愛知支部のメタボ予備軍の割合が、協会けんぽの全国平均を上回っている」

35～39歳のメタボ予備軍に対し個別課題に合わせたアドバイスシートを作成し、40歳からの特定保健指導対象者とし

⇒そのためには・・・

職種	業務中の動作・運動量	考えられる身体への影響	健康改善に必要なこと	アドバイス
規則的な職種(デスクワーク) 事務職・研究職・IT関連など	机の前に座りがち PC等の連続使用 運動量:小	運動不足による筋力低下 血流の乱れ 眼精疲労 自律神経の乱れ 睡眠不良 肩・腰の負担	仕事の合間のストレッチ PC等のモニターを見ない時間を作る 姿勢の見直し・改善 軽い運動	(例)通勤方法の見直しなどで運動量を増やす
不規則的な職種 営業職・医療関係職・運輸業など	1か所に留まらない 勤務時間が不規則 ずっと座っている(運転している) 運動量:小～中	食事時間・睡眠時間が不規則 水分摂取量の不足 下半身の疲労・血流の乱れ 腰の負担 食べてすぐ寝ることが多く歯への悪影響大	食事の見直し(内容・時間) こまめな水分摂取 手洗い・うがい ふくらはぎのポンプアップ	(例)車をほんの少し離れた場所に止めて歩く距離を増やす
体力的な職種 作業員(工場等)・農林漁業など	外で体を使う仕事が多い 立ちっぱなしが多い 体に負担がかかる姿勢での仕事が多い 使う筋肉に偏りがある 運動量:大	汗による塩分量の低下 水分摂取量の不足 全身の筋肉に負担 紫外線による目の負担 業務の忙しさにより体重変動が大きい	自分の活動量パターンを知る こまめな水分摂取 適度な塩分補給 入浴など筋肉の緊張をほぐす 紫外線ケア	(例)休憩中のコーヒー、食事量の多さに気を付ける

子の成長に合わせた考察

子の成長過程	親の年代	親の状態	外出する機会	健康に関する関心度	着眼点	健診・指導勧奨プラン案
新生児 ～小学生	20～30代 近年は40代も増加	長時間の外出等は困難。 仕事と育児の両立で疲れている。 子に合わせた生活リズム。	・子の健診 ・医療機関の受診 ・学校行事 ・子を伴っての外出・外食 ・買い物 ・子の習い事や塾の送迎	関心はあっても時間がなく、子の健康管理を優先し自分のことは後回しになる。	・子を伴っての実施。 ・社内または会社近辺での実施。	(例)社内または協会けんぽでのパパママ教室
中学生 ～高校生	30～50代	仕事が多忙。 子供の教育費等で金銭面の負担が増える。 子供の反抗期や進路でストレスがたまる。 体力の衰えを感じる。	・趣味 ・仕事 ・買い物 ・旅行 ・子の部活動や塾の送迎 ・外食	ある程度関心はあるが、病が発覚し入院等になることを恐れ、売薬などに頼りがちとなる。	・特定健診・がん検診の対象年齢。 ・更年期が始まる。 ・メンタルヘルスも必要。 ・メタボが増える。	(例)女性のライフプランと合わせたものを付随した健診
大学生～	40～60代	学費や子の生活費など金銭面の負担が増加。 働き盛り。 自分たちの親の介護などが始まる。 子が手を離れ自分のための時間ができる。 自分たちの老後や体の健康を考え始める。	・趣味 ・仕事 ・買い物 ・親の介護 ・旅行	体の不調が気になり始め、健康食品など健康に関する情報に敏感となる。 健康のために何かしなければと考えてはいる。	・治療期間が短期間になることをアピール。 ・健康などの相談ができる。 ・時間があり楽しめる。 ・親と一緒に参加できる。 ・癌が増える。	(例)癌に関するセミナーを付随する。